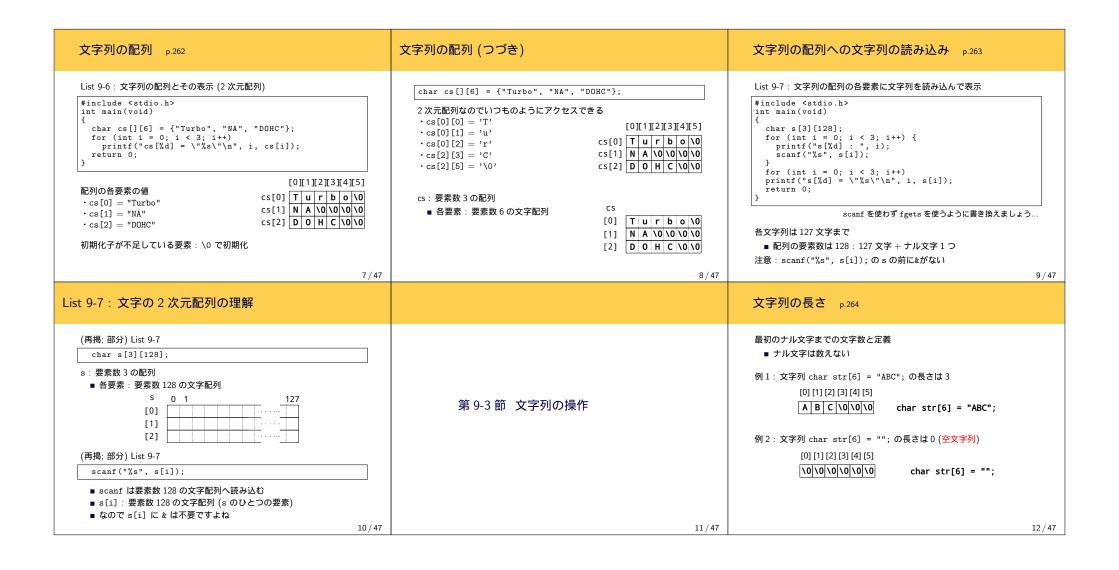
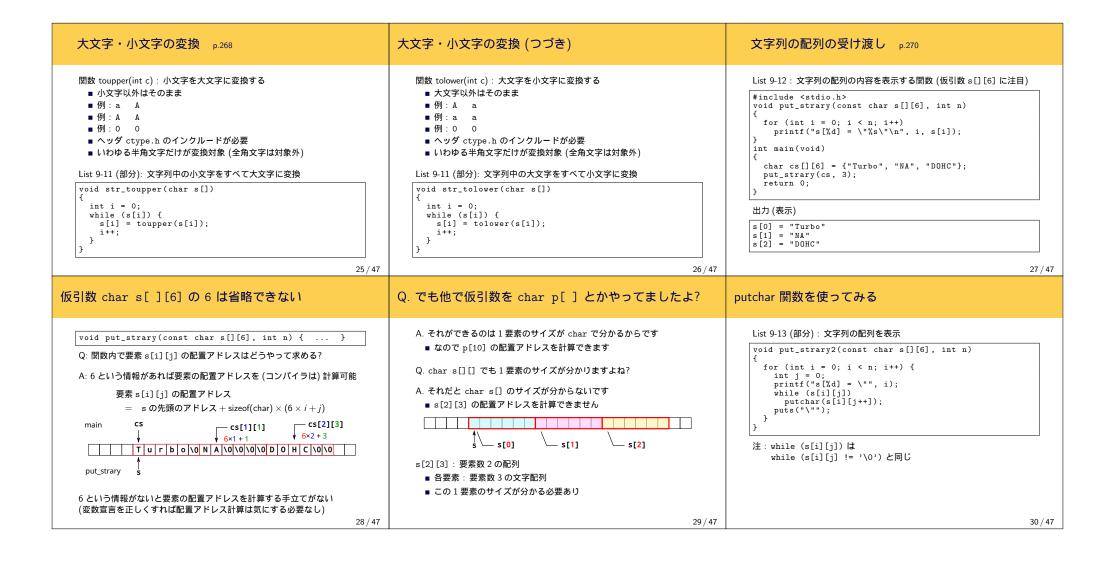
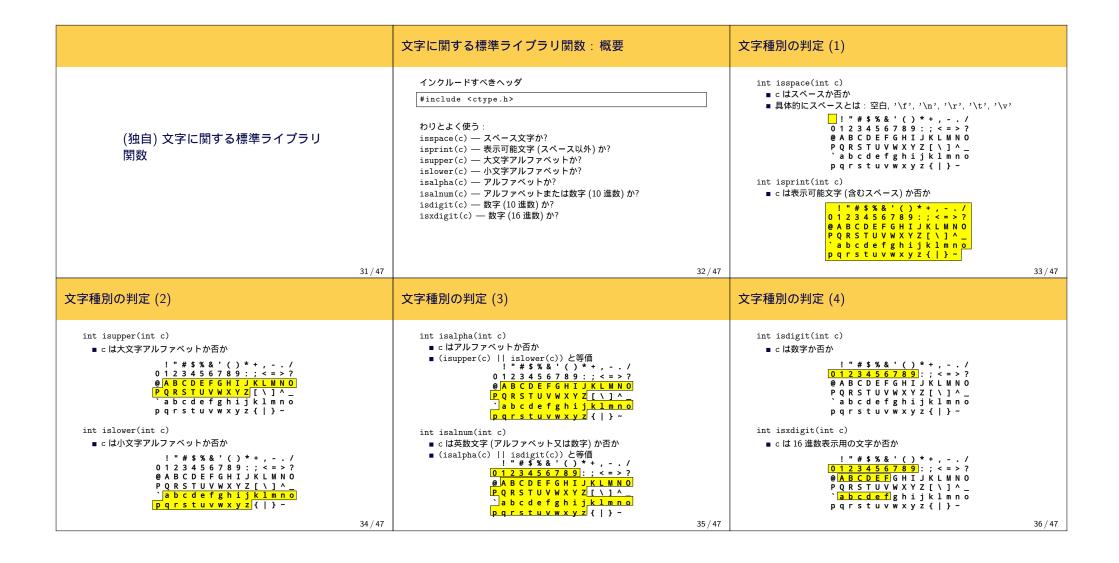
	もくじ	今回 (#06) の内容:シラバスでの該当部分
#06 文字列の操作 2022年度 / プログラミング及び実習 III 角川裕次 ^{服谷大学 先端理工学部}	 第 9-2 節 文字列の配列 第 9-3 節 文字列の操作 (独自)文字に関する標準ライブラリ関数 (独自)文字列に関する標準ライブラリ関数 	小テーマ: 文字列の操作 第 9 回:文字列のプログラミング
1/47 重要概念リスト	2/47 今回の実習・課題 (manaba へ提出)	3/47
■ 文字列の長さ ■ 文字列を表示する関数: puts, fputs ■ 書式付で表示する関数: printf, fprintf ■ 文字を表示する関数: putc, fputc, putchar ■ 大文字/小文字の変換: toupper, tolower	実習内容と課題内容は講義途中に提示します (作成したファイル類は manaba に提出) 5/47	第 9-2 節 文字列の配列 6/47



文字列の長さ, プログラム (List 9-8) 実行例 文字列の長さのプログラム例 関数 str_length() の観察 List 9-8: 文字列の長さを調べる 実行例1 int str_length(const char s[]) #include <stdio.h> ./list-9-8 int len = 0. 文字列を入力せよ:ABC int str_length(const char s[]) while (s[len]) 文字列"ABC"の長さは3です。 len++; int len = 0; return len: while (s[len]) len++; 実行例 2 return len; while (s[len]) は while (s[len] != '\0') と同じ \$./list-9-8 文字列を入力せよ: JugemuJugemu len ← int main(void) 文字列 "JugemuJugemu"の長さは12です。 [0] [1] [2] [3] [4] [5] char str[128]; G T 5 \0 \0 \0 \0 printf("文字列を入力せよ:"); scanf("%s", str); G T 5 \0 \0 \0 \0 printf("文字列\"%s\"の長さは%dです。\n", str, str_length(str)); G T 5 \0\0\0\0 return 0: G T 5 \0 \0 \0 \0 13 / 47 14 / 47 15 / 47 1 行読み込み (scanf 不使用版) の実装 1 行読み込み (scanf 不使用版) の使用の main 関数 scanf の問題点がわかる実行例 scanf の代わりに fgets (1 行読み込み) を使うのが良い \$./list-9-8 #include <stdio.h> 文字列を入力せよ:ABC ABC ■ EOF を読むと fgets() は NULL を返す #include <string.h> 文字列 "ABC"の長さは3 です。 ■ fgets() は '\n' も含めて読み込む仕様: 除去が必要 int main(void) ■ scanf: 空白を区切りとみなしている char str[8]; List 9-8 (改; 主要部): 1 行の文字列を読み込む printf("文字列を入力せよ:"); ■ 空白を含む文字列を取り扱うには不向き if (read_string(sizeof(str), str) != NULL) { char *read_string(int n, char *s) ■ これが scanf の使用をおすすめしない理由のひとつ printf("文字列\"%s\"の長さは%dです。\n", char *p = fgets(s, n, stdin); str, str_length(str)); } else { if (p != NULL) { printf("END-OF-FILE\n"); char *q = index(s, '\n'); if (q != NULL) { /*文字列最後の改行(Enterキー)は除去*/ return 0; 注意:文字配列の要素数を8にしている return p; ■ わざと短くしている (問題発生を分かりやすくしている) 16 / 47 17 / 47 18 / 47

1 行読み込み (scanf 不使用版): 実行例 文字列の表示 p.266 putchar 関数を使って文字列を表示 バッファオーバーフローを回避できている 表示のための関数: putchar, fputc, putc, puts, fputs, printf, fprintf List 9-9 (部分): putchar 関数を使って文字列を表示 ■ 要素数8の文字配列へ長い入力を与えてもOK void put_string(const char s[]) putchar 関数 \$./list-9-8-fixed int i = 0; ■ (標準出力に) 文字を出力 文字列を入力せよ:Jugemu while (s[i]) fputc 関数, putc 関数 文字列 "Jugemu"の長さは6です。 putchar(s[i++]); ■ (指定ストリームに) 文字を出力 \$./list-9-8-fixed 注: while (s[i]) は 文字列を入力せよ:JugemuJugemu while (s[i] != '\0') と同じ ■ (標準出力に)文字列を出力 文字列"JugemuJ"の長さば7です。 fputs 関数 文字列に空白が含まれていても期待通りに動作 ■ (指定ストリームに) 文字列を出力 ■ 文字列の先頭から 1 文字づつ putchar 関数で表示してゆく \$./list-9-8-fixed 文字列を入力せよ: Х У Z ■ ただしナル文字に出会うと終了 文字列"X Y Z"の長さは5です。 ■ (標準出力に) 文字列, 文字, 整数, 実数等を書式に従って出力 ■ ナル文字は表示しない fprintf 関数 ■ (指定ストリームに) 文字列, 文字, 整数, 実数等を書式に従って出力 19 / 47 21 / 47 文字列中の各数字の出現回数のカウント方: main 関数 数字文字の出現回数 p.267 数字文字の出現回数. 本体部分 0から9までの各数字が文字列中に何回出現するかを勘定 List 9-10 (部分 1/2): 文字列の入力と結果表示 List 9-10 (部分 2/2): 実際のカウント void str_dcount(const char s[], int cnt[]) int main(void) 実行例 int dcnt[10] = {0}; /* 分布 */ char str[128]; /* 文字列 int i = 0: 文字列を入力せよ: pi=3.1415926535,e=2.71828 while (s[i]) { /* 文字列 */ 数字文字の出現回数 printf("文字列を入力せよ:"); if (s[i] >= '0' && s[i] <= '9') 00:0 scanf("%s", str); str_dcount(str, dcnt); cnt[s[i] - '0']++; 11:3 i++: 22:3 puts("数字文字の出現回数"); } 37:2 for (int i = 0; i < 10; i++) 4':1 printf("'%d': %d\n", i, dcnt[i]); '5':3 return 0; '6':1 77:1 ■ 文字列を先頭から1文字づつ眺めてゆく '8':2 ■ 数字('0', '1', ..., '9') なら 99:1 配列 cnt の対応する要素の値を1増加 22 / 47 23 / 47 24 / 47





文字種別の判定 (5)	文字種別の判定 (そのほか)	大文字/小文字变換
int ispunct(int c) ■ c はスペース・英数文字以外か否か (記号か否か) " # \$ % & ' () * + , / 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ;; <= > ? ■ A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z [\] ^ _	int isascii(int c) ■ c は符号無し7ビットで表現可能な文字か否か int isblank(int c) ■ c は空白文字・タブ文字か否か int iscntrl(int c) ■ c は制御文字か否か	int toupper(int c) ■ 小文字は大文字に変換 (それ以外の文字はそのまま) ■ touppder('a') 'A' ■ touppder('X') 'X' int tolower(int c) ■ 大文字は小文字に変換 (それ以外の文字はそのまま) ■ tolower('A') 'a' ■ tolower('y') 'y'
37 /	38 / 47 38 / 47 文字列に関する標準ライブラリ関数: 概要	文字列の長さ
(独自) 文字列に関する標準ライブラ リ関数	#include <string.h> strlen(s) — 長さ strcmp(s1,s2) — 大小比較 strncmp(s1,s2,n) — 大小比較 (文字数限定) strchr(s,c) — 文字 c の検索 (先頭から) strrchr(s,c) — 文字 c の検索 (未尾から) strstr(s,t) — 文字中の文字列の検索 strncat(s,t,n) — s の後に t を連結 strncpy(s,t,n) — s に t を上書きコピー strdup(s) — s のコピーを生成</string.h>	size_t strlen(const char *s) ■ 文字列 s の長さを返す
40 /	47 41/47	42 / 47

文字列の比較	文字の検索	文字列の連結・コピー
int strcmp(const char *s1, const char *s2) ■ 文字列 s1 と s2 を比較 ■ 返り値: 0 (s1 =s2 の場合) ■ 返り値: < 0 (s1 <s2 ■="" の場合)="" 返り値:=""> 0 (s1 >s2 の場合) int strncmp(const char *s1, const char *s2, size_t n) ■ 文字列 s1 と s2 を比較 (先頭から n 文字まで) ■ 返り値: 0 (s1 =s2 の場合) ■ 返り値: < 0 (s1 <s2 ■="" の場合)="" 返り値:=""> 0 (s1 >s2 の場合)</s2></s2>	char *strchr(const char *s, int c)	char *strncat(char *dest, const char *src, size_t n) ■ 文字列 dest の末尾に文字列 src の内容を連結 ■ dest の長さの制限は n char *strncpy(char *dest, const char *src, size_t n) ■ 文字列 dest に文字列 src をコピー ■ コピーするのは src の n 文字まで ■ 要注意: n 文字ちょうどのコピーの場合 dest は\0 で終端されない char *strdup(const char *s) ■ 新たな文字配列(メモリ)を割り当て文字列 s をコピー ■ 新たな文字配列へのポインタを返す ■ (その文字列が不要になれば free() でメモリ解放が必要
	番外編の課題 1	
おわり	任意に与えられた文字列に対し文字列中の1単語を1行ごとに表示する関数の作成 void pstrword(const char *s); ただし単語を構成する文字はアルファベットと数字に限定 例: pstrword("He was born in 2001."); の出力 He was born in 2001.") の出り He llo world You baye	

47 / 47

have mail

46 / 47

45 / 47